

# 関係形成の育成を目指す道徳の時間の展開

— 児童生徒が主体的に道徳的価値の自覚を深める学習活動を通して —

指導主事 梶原 圭一

研究協力員 上天草市立維和小学校 教諭 坂本 義光  
芦北町立田浦中学校 教諭 光永 朋樹

研究協力校 山鹿市立山鹿小学校 2年部

公開授業者 教諭 林田 美貴 (2年4組)

検証授業者 教諭 古閑 彩香 (2年1組)

検証協力者 講師 下川 千春 (2年3組)

検証協力者 講師 建岡 朋治 (2年2組)

## 1 研究の視点

### (1) 道徳における「関係形成の育成」とは

平成27年3月27日「学校教育法施行規則の一部を改正する省令、道徳に係る小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示及び移行措置に係る告示」が公表され、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能となった。新たに改正された小学校及び中学校の「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」が、平成27年7月4日に公表され、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から全面实施されることになる。

このような道徳の教科化の流れの中で、熊本県教育委員会では、「平成27年度重点施策」において、以下のように示した。

子供たちの規範意識や社会性を育成するため、平成30年度からの道徳の時間の教科化に先駆け、平成28年度から全ての小中学校で「特別の教科道徳」の趣旨・内容を踏まえた授業を実施できるよう、学識経験者等からなる検討会議を設置し、道徳教育用郷土資料「熊本の心」を活用した教材の開発や指導方法等の研究に取り組みます。  
(以下省略)

このことより、本県では平成28年度より全ての小中学校で「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえた授業を実施することから、本研究を進めるにあたっては、改正学習指導要領の趣旨を踏まえた視点を設定することとした。

改正学習指導要領「第1章 総説」では、今後グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の進展や社会・経済の変

化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題になることと述べている。この課題に対応していくためには、一人一人が高い倫理観を持つとともに、以下の資質・能力の育成が必要であることをうたっている。

人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある。

本研究においては、以上のような資質・能力を育てていくことを「関係形成の育成」と捉え、実践的研究を進めることとした。

### (2) 【視点1】について

今回の学習指導要領の改正は、発達段階に応じ、答えは一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図るものであり、「特別の教科 道徳」の目標を以下のように改めた。

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※ ( ) は中学校の目標

道徳教育の目標から鑑みるに、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ためには、児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童生徒が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることが求められる。

改正された学習指導要領では、道徳的価値に根ざした問題や課題に対して、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うためには、児童生徒が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような問題解決的な学習を取り入れることが有効であることが示されている。

そこで、本研究では、児童生徒の学びを引き出す指導方法の工夫として、道徳的価値に基づく発問を工夫し、問題解決的な学習活動を展開することにした。

### (3) 【視点2】について

改正された学習指導要領解説の「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」で、以下のような記述がある。

(3) 児童（生徒）が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童（生徒）自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。 ※（ ）は、中学校

道徳の授業を通して自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりするためには、学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫することが必要である。

児童生徒が、自らの考えを深めたり、整理したりする機会としては書く活動が考えられる。道徳的価値に照らして自分自身とじっくり向き合うことができるよう、発達段階に応じたワークシートや授業後の振り返りシートを工夫することにする。

### (4) 【視点3】について

道徳の時間は、児童生徒一人一人が、ねらいに

含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。

しかし児童生徒には、年齢相応の発達段階があるとともに、個人差も大きいことに留意し、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりの工夫が必要である。

本研究を進めるにあたっては、「学びを支える」取組として、児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなる板書や ICT 機器を工夫していく。

## 2 研究の実際

### 検証1 小学校第2学年

主題名 「わがままをしない心」（節度・節制）

資料名 「一日 田うえ」

出典 道徳教育用郷土資料「くまものこころ」

### (1) 本主題に関する授業設計

#### ① ねらいとする内容項目について

人は、社会的なつながりの中で助け合って生活している。自分勝手な行動は、他者に迷惑をかけ、時には自分も被害を受けることがある。一人一人がよりよい生き方を目指し、明るい社会を築いていくためには、人の注意を素直に聞き、節度ある生活をするとともに、自制心を持つことが重要である。

低学年の段階においては、自己中心性が強く、他者の気持ちに気付かず衝動的に行動してしまい、注意を受けることも多い。その際に、児童は「わがまま」や「自分勝手」という言葉を用いて注意を受けたり、反対に注意を促したりすることがある。

本来「わがまま」とは、「他人の迷惑も考えないで、自分の思うよう行動すること」を指す。自らのとっている行動が「わがまま」であるかどうかの判断基準としては、他者の視点から客観的に把握し認識するメタ認知力が必要である。しかし、低学年の発達段階から、「わがまま」であると注意を促されても、その意味を十分理解できないまま

言葉のみを覚えてしまう傾向も考えられる。

主として自分自身に関する内容項目ではあるが、他者の視点から自らの言動を振り返る学習過程を積極的に取り入れることで、節度ある生活の意義を実感することが重要であると考えた。

## ② 児童の実態より

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を基にした道徳性に関する意識調査を、2年生4学級に実施した。全体的な傾向としては、児童自身が肯定的に受け止めている項目としては、「道徳の時間」「人とかかわり、規範意識」「生命の尊重」が見られた。これまでのかかわりの中で、児童同士及び児童と教師との信頼関係が構築されてきている表れであると言える。

反対に、学級全体として肯定的に受け止めが十分でないと考えられる項目としては、「善悪の判断」「基本的な生活習慣、自立心・自律性」が見られた。「人として、してはならないことをしない(うそをつかない、人をきずつけない、人のものをとらない)」については、「できていない」と回答する児童が多く、学年全体としての課題である。

さらに、「身の回りのことをできるだけ自分でしている」の項目についても、否定的に受け止めている児童が見られる。日常生活場面において、より自らの言動を客観的に捉え、粘り強く振り返らせていく指導が必要であると考えられる。

本主題に関する調査を実施したところ、4割近くの児童が自分を「わがまま」な方だと考えていることが分かった。しかし、自らの自己中心的な言動が他者に迷惑をかけているという認識にまでは至っておらず、「わがまま」という意味を捉え切れていない実態が分かった。このことから、自分たちの言動を客観的に振り返る視点を持たせていくことが必要であると考えられる。

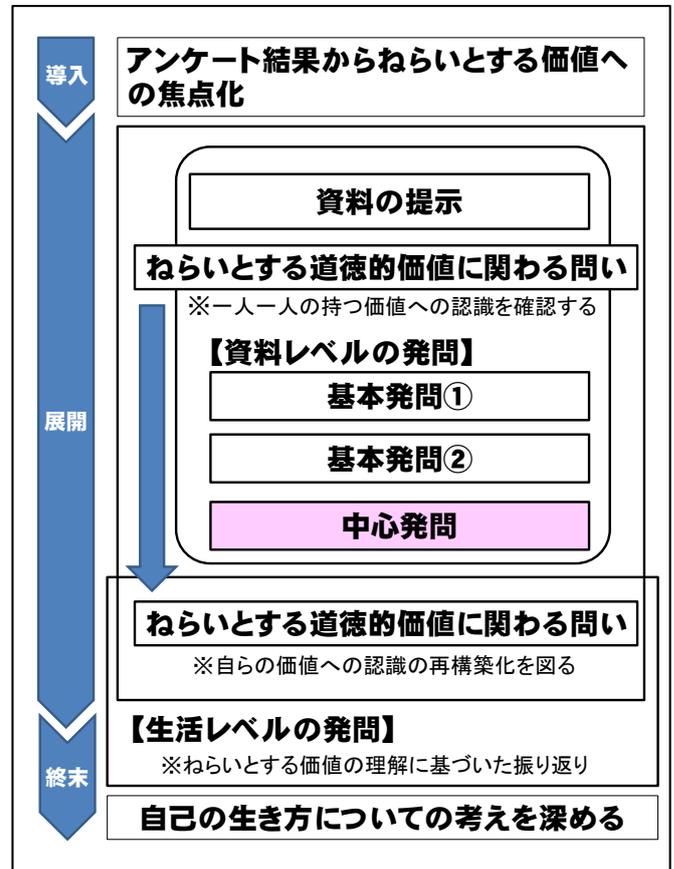
## ③ 小学校低学年段階における問題解決的な学習

この時期の児童は、社会における様々な体験が乏しいため、それぞれの持つ価値観も十分確立してはいない。この段階では、読み物資料に出てくる人物の気持ちの変化を追いながら共感を図っていくような、発達段階に応じた発問構成を考えることが一般的である。

小学校低学年の段階で問題解決的な学習を計画

するにあたり、道徳的価値に根ざした問題と資料レベルの共感的な発問を組み合わせることで、ねらいとする道徳的価値に迫るようにした。

主な授業の流れと発問構成については、図1に示す。



【図1】小学校低学年における問題解決的な学習の流れ

## (2) 指導の実際

### ① 本時のねらい

米原長者の行動を村人の立場から考える活動を通して、自分本位のわがままな行動が自他ともに迷惑をかけることに気付き、節度を考えて行動しようとする心情を養う。

### ② 共同研究と関連した取組

#### 視点1について

資料の主人公に対して、児童の感想から道徳的価値に迫る課題を設定する。その課題解決を図るための過程の中で、児童同士の意見交流や役割演技といった友達とかかわり合いながら学びを進める学習活動を設定することで、より主体的・協働的な学びを引き出していく。

#### 視点2について

児童と共に設定した課題に対して、再度展開後

段に振り返りの場を設定することで、児童の価値に対する自己理解の再構築を促す。

また、友達の意見に触れながら自らの価値観を再構築できるよう、ワークシートに加筆・修正できる欄を設ける。

**視点3について**

児童の興味関心を高めると共に、提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具を工夫としてICTを効果的に活用する。併せて、構造的な板書づくりを計画する。

**② 本時の展開**

過程	主な学習活動
導入	<p><b>【視点3：ICTを活用した資料提示の工夫】</b></p> <p>1 アンケート結果から、自分たちの「わがまま」(自分勝手)な言動について振り返る。 T：自分を「わがまま」な方だと思いますか。</p> <p>わがままなほうだ 12人 わがままではない 20人</p> <p><b>【理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が話している時に話すから。</li> <li>・ゲームをやらせてというから。</li> <li>・かかってに あきらめるから。</li> <li>・けんかをするから。</li> </ul> <p>C：ぼくもわがままだ。ぼくと理由が同じだ。</p> <p>2 米原長者について知る。</p>
展開	<p>3 資料「一日 田うえ」を聞いて、話し合う。 T：長者どんをどんな人だと思いますか？ C：わがまま。自分勝手な人。 T：一日で田植えをしたかったんですね。どうしていけないのかな。 C：わがままだから。自分勝手だから。</p> <p><b>【視点1：道徳的価値に基づいた問題解決的な学習の工夫】</b></p> <p><b>【道徳的価値に根ざした問い】</b> どうして、わがまま(自分勝手)な行動をしてはいけないのだろう。</p> <p>T：「しずむな、もどれえ、もどれえ」と金のおうぎでお日様をまねき返す長者どんは、どんなことを考えていたでしょう。また、そのことをお日様はどう思っていたでしょう。 C：めいわくだなあ。 C：長者どんは、ひどい人だなあ。 T：村人は、三千樽の油をまいて山を燃やしたことで、自分の家や蔵を燃やしてしまった長者どんのことをどう思っていたでしょう。</p> <p>村人の気持ちになり、村人の心の声をワークシートに記入する。</p>

展開	<p><b>【視点3：ICTを活用した資料提示の工夫】</b></p> <p><b>グループかつどうのほう</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①友だちの書いた心の声を聞く。</li> <li>②友だちの心の声を聞いて、つけかわえたいことばを書く。</li> <li>③はっぴょうする時に、だれから言うかじゅんばんをさめる。</li> <li>④はっぴょうのれんしゅうをする。</li> </ol> <p>はなしあいがないしゅうすだったグループは、みんなの力ではっぴょうしてもらいます！</p> <p>全員が話し合いの流れを意識しながら学習が進められるよう大型テレビに話し合いの手順を提示する。</p> <p>個人で考えた村人の気持ちをグループで紹介し合い、村人たちの会話を想像する。 ※会話の順番は、それぞれの内容から決める。</p> <p>ペープサートを使って役割演技をしながら、グループで考えた村人たちの会話を紹介する。</p>
	<p><b>【視点2：ワークシートを活用した価値の再構築化】</b></p> <p>友達の意見を聞いて、自分の意見に付け加えたい言葉を自由に書き加える欄を設けた。</p> <p><b>【道徳的価値に根ざした問い】</b> どうして、わがまま(自分勝手)な行動をしてはいけないのだろう。</p> <p>C：わがままなことをすると、自分に返ってくる。 C：わがままなことは、他の人に迷惑がかかるからしてはいけない。</p> <p>4 自分の生活について振り返る。 T：わがままをしないで、みんなのことを考えて行動していた人を見つけたので紹介します。 ・最近、給食の準備が早くなった理由から ・朝の会が時間通りに始められている理由から</p>
終末	<p>5 教師の説話を聞く。 T：先生も小さい頃、わがままを言って周りの人を困らせたことがあります・・・ T：振り返りカードに今日の学習を通して感じたこと、考えたことを書きましょう。</p>

(3) 検証結果と考察

視点1について

今回の研究の目的である、「関係形成」を育むことに関し、意識調査の結果を以下に示す。

表1は、質問紙調査において検証授業前後の調査結果を示したものである。

変容が見られた質問項目	学習前	学習後
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある。	3.16	3.50
話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	3.35	3.60
グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.16	3.43

【表1】 授業前後の児童の意識調査の結果（一部抽出）

「グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある」の質問項目の伸びから、グループによる話合いを好意的に捉えながら学習を進めていることがうかがえる。また、「話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある」「話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする」の項目の伸びから、他者の多様な意見を受け止めるとともに、自らの価値観の再構築の手掛かりにしていることも推察できる。

これらのことから、グループによる話合いを通して役割演技の会話を作り上げる取組は、児童が主体的に道徳的価値の自覚を深める手段として効果的に働いたと考えられる。

視点2について

アンケート結果に基づいて道徳的価値に基づく課題を設定し、授業後半に再度同じ問いを児童に投げかけ、学びを振り返る取組を計画した。最初の問いは、児童のねらいとする価値を明確にし、思考の方向付けの役割を果たした。基本発問及び中心発問に対する児童の意見は、常に「わがまま」や「自分勝手」というキーワードに基づいて考えられていた。児童の授業後の振り返りカードを図2に示す。

【図2】 振り返りカード

また、展開後半に同じ問いを行ったところ、「わがままな行動は、自分に返ってくる」という自分中心の視点だけでなく、「人に迷惑をかける」という周りの人たちの視点も加わった意見が出されていた。一つの道徳的価値に対して、多面的に捉えることができるようになったという点から、指導者のねらいに合致した取組であったと言える。

視点3について

日頃の道徳の授業では、資料の読み聞かせを基本として進めてきたが、今回の授業に際しては、DVDを活用して提示した。DVDで示される挿絵は効果的に提示されることもあり、児童全員が興味を持つて資料の世界に入り込むことができ、内容理解が進んだ。

グループによる話合いに際しては、話合いの手順を大型テレビで提示しながら説明した。2年生という発達段階を考えると、グループ活動の経験は少なく、児童一人一人の活動への受け止めも若干低かった。しかし、全員が話合いの手順をしっかりと見ながら意識し、友達の意見を聞き合い、それぞれの記述に基づきながら役割演技の発表順番を決めることができたことから、一人一人の学びを支える役割を果たしたと推察できる。

検証2 小学校第6学年

主題名 「家族のために」（家族愛・家庭生活の充実）

資料名 「はじめてのアンカー」

出典 「みんなの道徳6年」（学研）

(1) 本主題に関する授業設計

① ねらいとする内容項目について

家族への尊敬の念は、人格や行為が自分より優れていたり、至らない自分を支えてくれる存在であると感じたりしたときに生まれると考える。また、家族の幸せとは、家族相互に信頼したり喜び合ったり、心が満ち足りた状態であると考えられる。

家族とは、苦楽を共に分かち合い、温かな人間関係の中で心が安心する場所であり、他者への思いやりや自分の役割の自覚など、社会性を身に付けていく基盤となる場所でもある。そんな家族との関係が豊かであるほど、児童の人生も豊かなものになると言えるのではないだろうか。

本主題では、かけがえのない家族とのつながりという視点から、家族一人一人の立場や役割を多面的に考えさせ、自分が家族の支えや助けによって成長してきたことをしっかりと理解させたい。その上で、家族との信頼関係や絆を深め、家族を思いやり、助け合って明るい家庭を築いていこうとする心情を養うことをねらいとする。

## ② 児童の実態より

本学級は、男子3名、女子5名の少人数の学級である。小学校高学年という発達段階から、家族の存在に対する認識も、大きく変化してくる時期である。

今回の授業を計画するにあたり、児童及び保護者を対象に意識調査を行った。(回収率100%)

ほとんどの児童が、「家族と一緒に生活する」ことに対して、「楽しい」と回答した。「家族がいてよかったと思うとき」の回答は、心のつながりを感じている児童もいれば、物や旅行など「与えてくれるもの」に喜びを感じている児童もあり、価値観の幅が広いことが分かった。

自分の家族に対する意識調査の中から着目すべき点として、互いの信頼感の相違が見られた。

<児童へのアンケート>

自分の親を信頼していますか	6.9
自分の親に信頼されていると思いますか	6.6

<保護者へのアンケート>

子どもを信頼していますか	8.8
子どもに信頼されていると思いますか	8.1

(1「信頼していない」⇔10「信頼している」の平均値)

この意識の差から学習の問いを生み出し、親子参加型の授業を行うことで、互いの思いを聞き合い、確かめ合う場にしていきたいと考えた。

## ③ 小学校高学年段階における問題解決的な学習

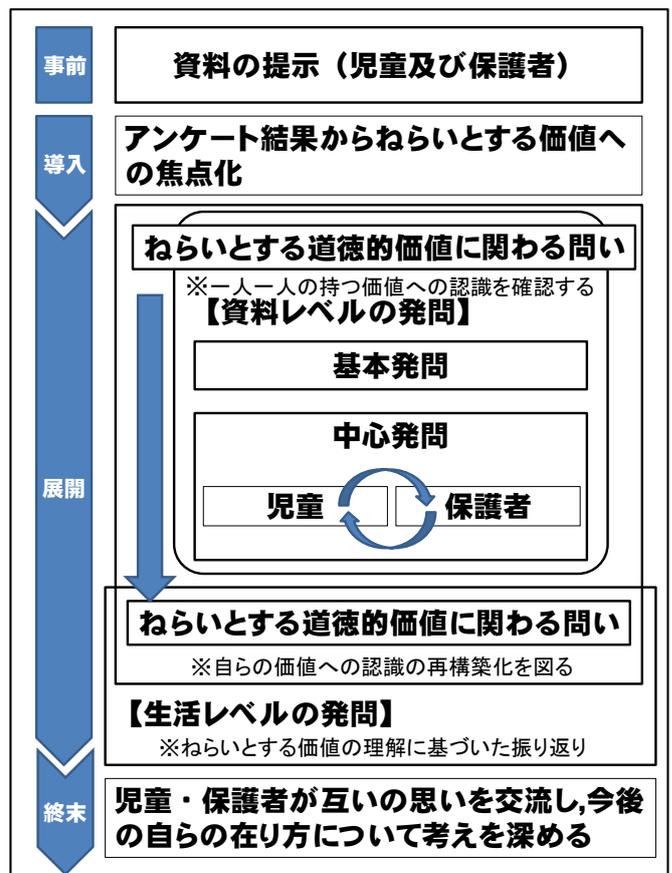
平成26年10月26日の中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」の中で、これまでの道徳教育の指導方法について、以下のように課題を指摘している。

これまで、例えば、道徳の時間において、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることや、発達の段階などを十分に踏まえ、児童生徒に望ましいと思われ

るわかりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっている例がある・・・(後略)

読み物資料の主人公の心情に共感する発問の精選を図り、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えを深める時間をより多く設定していく。また、授業後半に再度ねらいとする道徳的価値に関わる問いを行うことで、それぞれの価値観の再構築を図るようにした。

主な授業の流れと発問構成については、図3に示す。



【図3】小学校高学年における問題解決的な学習の流れ

## (2) 指導の実際

### ① 本時のねらい

まき(児童)や父(保護者)の気持ちを考える活動を通して、信頼関係を深めるためには、互いに思い合うことが大切であることに気づき、家族の一員として協力しようとする心情を育てる。

### ② 共同研究と関連した取組

#### 視点1について

アンケートを基にめあてに迫る課題を設定する。その課題解決を図るために、発問や課題に対する児童同士、児童と保護者の意見交流を行いながら

学びを進める学習活動を設定することで、より主体的・協働的な学びを引き出す。

**視点2について**

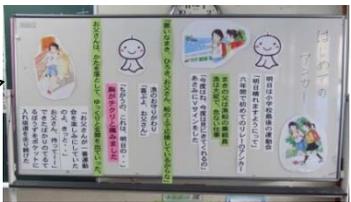
児童用と保護者用の2種類のワークシートを準備し、中心発問について考える際に、それぞれの立場から意見を記入する。その記入を元に、児童と保護者合同で話し合う場を設定し、多面的・多角的に物事を捉えことができるよう工夫する。

また、児童と保護者がそれぞれの立場から「家族の信頼関係を深める方法」をキーワードで記し、考えを可視化しながら共有することで、児童の道徳的実践意欲と態度を高める。

**視点3について**

意識調査から見える課題と読み物資料の流れを児童及び保護者が常に確認しながら意見を考えられるよう、移動黒板を活用した板書提示の工夫を図る。

**③ 本時の展開**

過程	主な学習活動
導入	<p><b>【視点3：アンケート結果の提示の工夫】</b></p> <p>1 現在の家族関係(児童の思い)から学習のめあてを設定する。</p> <p>T：家族に対する思いをアンケートで聞きましたが、この結果から、なぜ親子で、信頼関係に対する思いの差が生まれたのでしょうか。</p>  <p>移動黒板の両面を活用した提示</p> <p>アンケート結果を整理し、課題を明確にした板書</p> <p>資料の流れやキーワードを記した資料用板書</p> 
展開	<p>2 資料「はじめてのアンカー」を聞き、話し合う。</p> <p><b>【視点1：道徳的価値に基づいた問いの提示】</b></p> <p><b>【道徳的価値に根ざした問い】</b> 家族との信頼関係を深めるためには、私に何が必要だろう。</p> <p>T：Vサインを出しているときと父が漁に出ることを知ったときのまきはそれぞれどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>〔Vサインをしているとき〕</p> <p>C：うれしい。 C：お父さんが来てくれることが楽しみ。 C：6年生最後に来てくれる。</p>

〔父が漁に出ることを知ったとき〕

C：来てくれると思ったのに・・・。

C：悲しい。

C：イライラする。

**【視点2：児童・保護者の立場から意見をまとめるワークシートの工夫】**

<p>〈児童〉</p> <p>T：「祖母の話聞いた後、まきの心がチクリと痛んだのは、どんな心に気付いたからでしょう。</p>	<p>〈保護者〉</p> <p>T：お父さんは、まきに対してどんなことを思っていたでしょう。</p>
--	--

- ・自分のことばかり考えていた。
- ・楽しみにしていたのは、私もお父さんも同じなのに。
- ・お父さんのことを考えていなかった。



- ・まきも楽しみにしていたのに、すぐく申し訳ない。
- ・お父さんもまきの活躍が見たかった。
- ・約束を破ってしまい悲しい。

↓

**展開**

3 学習したことを振り返り、信頼関係を深めるために必要ことを考える。

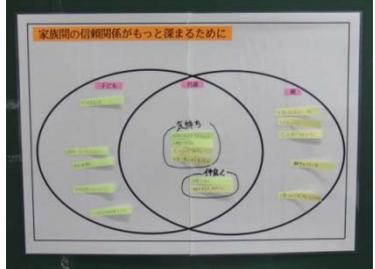
それぞれの立場から考えた意見をグループ内で出し合い、その後意見交流を行う。友達の良いと思う意見については、加筆していく。



**【視点2：価値観の再構築を図る場の設定】**

T：グループでの話し合いを通して、家族との信頼関係を深めるために、私に何が必要だと思いますか。

※児童、保護者のそれぞれで授業に基づいたキーワードを付箋に書き、シートに提示しながらその理由を話す。さらに、出されたキーワードを整理し、見出しをつけていく。



**終末**

4 保護者への手紙を書く。

T：今日学習したことを基に、おうちの人に手紙を書きましょう。保護者の方は、子どもたちへ手紙を書いてください。

まだまだ成長できると思うので、わがままな娘を今後ともよろしくお願いします。



### (3) 検証結果と考察

#### 視点1について

「関係形成」という点において、本実践においては、児童相互及び児童と保護者という視点から結果を示す。

表2は、小学校低学年の実践と同様に、質問紙調査において検証授業前後の調査結果を示したものである。

変容が見られた質問項目	学習前	学習後
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている。	2.88	3.75
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある。	3.38	3.88
話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	3.50	3.75
グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.25	3.88

【表2】授業前後の児童の意識調査の結果（一部抽出）

少人数の学級であるため、実数は少ないものの、グループでの話合いを取り入れた学習の効果を児童自身が実感していることが分かった。今回のグループによる学習に対する児童の感想には、以下のような記述が見られた。

- 自分の意見と違う考えがあって、なるほどと思って自分の考えがより深まる。
- 自分の考えが変わったり、友達の考えがすごいと思う。
- 自分の話よりいいものが出てくる。2人のときより話しやすい。いっぱい話が出てくる。

これらのことから、今回の学習の中で、友達の意見を聞き合いながら自らの価値観を見つめ直し、様々な視点から再構築化していったことがうかがえる。

さらに、親子の「関係形成」について、表3のような受け止め方の変化が見られた。

質問項目	学習前	学習後	増減
あなたは、自分の親を信頼していますか。	6.9	9.1	+2.2
あなたは、親に信頼されていると思いますか。	6.6	8.9	+2.3

【表3】保護者への意識を問う調査の結果

保護者との「信頼」という関係性について、数値に伸びが見られた。このことから、今回の授業が親子間の関係の在り方を考えるうえで、効果的であったと考えることができる。

#### 視点2について

読み物資料を通して考えたことを基に、価値観を再構築し、より実践へと結び付けるために、「家族の信頼関係を深めるための方法」を考えること

にした。自らが考えた意見を短くキーワードにまとめ、親子協働のシートを活用しながらまとめていったが、特に、シートの中に親子共通の欄を設け、付箋を貼りながら意見交換する場を設けた。

保護者を含んだグループで意見交換する中で、共通する取組として、以下のようなものがまとめられた。

- ・約束を守る
- ・話をする
- ・お互いの気持ちを考える
- ・仲良くする
- ・相手意識

授業後の児童の感想の中に、これらのキーワードを使って、「これからは、相手の気持ちを考えたい」「家族の絆を深めるために、お互い相手の気持ちを考えて行動したい」といったまとめが見られ、価値観を再構築するにあたり、大きな役割を果たしたと推察できる。

#### 視点3について

授業を計画するにあたり、グループによる話合いの時間を十分確保するために、児童及び保護者に対して、事前に読み物資料を配布し、内容を理解したうえで授業を進めることにした。このことから、グループによる多様な話合いの時間を30分ほど確保することができ、深めることができた。

授業の中で読み物資料を読まないため、話の流れやキーワードとなる言葉をまとめた板書を事前に用意したが、児童が意見を考える際に黒板を振り返るというシーンが見られた。また、移動黒板の両面を活用し、反対面には意識調査の結果を残しておくことで、資料と日常生活を交互に振り返ることができるという点で、効果的であったと考える。

**検証3 中学校第1学年**  
**主題名 「日本人としての心」**  
 （我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度）  
**資料名 「熊本スピリッツ」**  
**出典 道徳教育用郷土資料「熊本の心」**

#### (1) 本主題に関する授業設計

##### ① ねらいとする内容項目について

日本人としての心とは、自分自身が日本人であるという自覚を持ち、それを大切にしていこうとする心であると考えている。日本人としての心が何で

あるのかという普遍的な答えがあるとは言いがたい。しかし、それぞれに日本人としての心についての考えがあると思われる。その考えに気付き、日本人としての心を大切にすることが国を愛する心につながると考える。

日本人としての心が何なのかを考えるためには、日本人が今まで大切にしてきた文化や習慣を知り、それを伝えてきた人たちの思いに触れることが必要であると考え。それらを通して、日本人としての心を誇りに思うことで、日本人としての自覚が芽生え、その文化や習慣を継承していくようになる。そのような心情を育てるべく、本主題を設定した。

## ② 生徒の実態より

生徒30名に対する事前の意識調査を行ったところ、以下のような結果が得られた。

日本を好きだと感じる	23人
日本を誇らしいと感じる	18人
古くからある伝統や文化は大切だと思う	27人
古くからある伝統や文化は受け継いでいかならないと思う	19人
日本のために将来何かしたいと思う	22人

【表4】授業前の生徒の意識調査の結果（一部抽出）

自分たちの暮らす日本を好きだと感じる心や、日本の伝統や文化を大切だと思う気持ちは多くの生徒に見られるものの、具体的に「大切にすること」とはどういうことであるか、「日本人の誇りとは何か」といった思いには至っていないことがうかがえる。

また、一人一人が未来の日本の継承者であり、新しい文化の創造者であるという意識は薄く、「今のままでよい」や「何をしてよいのか分からない」という意見も見られた。

生徒一人一人が国家及び社会の形成者として、そのことに努めていこうとする意欲と態度を持つためにも、まず我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力とその精神について学び、振り返る場が必要であると考えた。

## ③ 中学校段階における問題解決的な学習

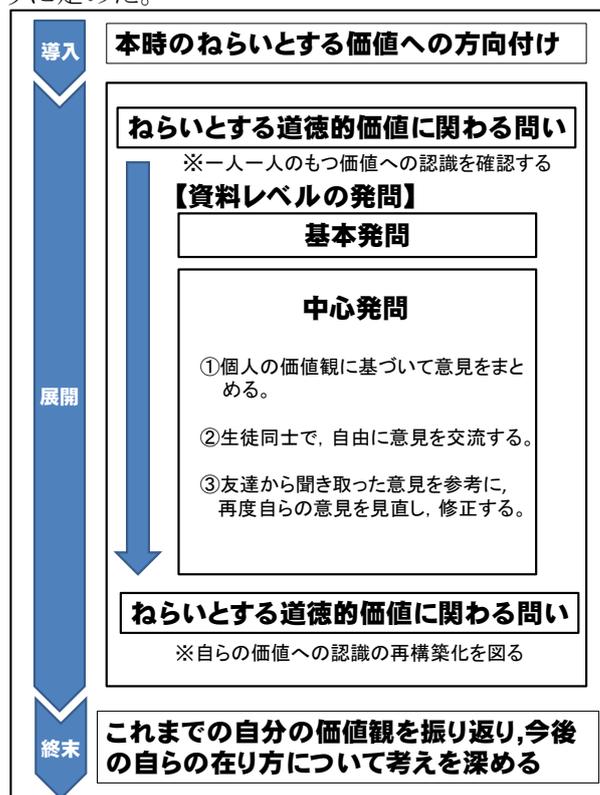
中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」では、生徒が主体的に道徳性を育む指導について、以下のように示している。

道徳科の授業では、教師が特定の価値観を生徒に押し付けたり、指示通りに主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、人間としてよりよく生きるために道徳的価値と向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものである。

そのためには、道徳科の目標や指導のねらいを明らかにして、生徒一人一人が見通しを持つて主体的に考え、学ぶことができるようにする必要がある。その際、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、生徒が道徳的な内容に興味・関心をもち、自分の判断や生き方と関わらせながら学習を進めていく態度を身に付けられるようにすることが重要である。（後略）

授業を構成するにあたっては、中学生という発達段階を考慮し、生徒一人一人がより主体的に学習に取り組むことを主眼に学習の流れを計画した。

生徒自らがねらいとする道徳的価値に対して様々な考えと出会い、その中で自らの生活を振り返り、人間としての生き方について理解を深める学習とすることを目指し、授業の流れを図4のように定めた。



【図4】中学校における問題解決的な学習の流れ

(2) 指導の実際

① 本時のねらい

日本人として大切にしなければならない「心」について考えることを通して、日本人としての自覚を持ち、生活していこうとする道徳的心情を育てる。

② 共同研究と関連した取組

視点1について

めあてに迫る具体的な課題を設定し、それに対して自分の意見を明確にし、意見交流する場を設ける。意見交流しながら、生まれてくる疑問や考えを自由に交流させることで、活発な学びを行い、主体的・協働的な学びを引き出していく。

視点2について

生徒間の意見交流を通して、自らがどの意見に強く影響を受け、どのように意見の再構築を図っていったかが一見できるよう、思考過程に応じたワークシートの構成を工夫する。

また、本時の学習を踏まえての振り返りの場面では、本時を通しての新たな気付きや気持ちの変化等をまとめる「振り返りカード」を作成する。この「振り返りカード」については、道徳の授業ごとに記入させ、日常的に確認できるよう掲示していく。

視点3について

個人思考の時間を十分に確保する。また机間指導し、個人の意見が持ちにくい生徒に対して援助を行う。また導入部分では、ICT 機器を活用して、授業への動機付けをより確実にやっていく。

③ 本時の展開

過程	主な学習活動
導入	<p><b>【視点3：ICTによる課題提示の工夫】</b></p> <p>1 学習する内容について確認する。</p> <p>T：この人について紹介します。この人は日本人ですか。</p> <p>※生徒同士で相談する時間をとる。</p> <p>S：日本人？日本人じゃない</p> <p>T：日本人と判断したのはどの条件からですか。</p> <p>S：外見？考え方？</p> <p><b>【視点1：道徳的価値に基づいた問いの提示】</b></p> <p><b>【道徳的価値に根ざした問い】</b> 日本人の大切な心とは何だろうか</p>
	

展開

2 資料「熊本スピリッツ」を読んで、話し合う。  
T：日本人とは何なのかということを考えながら聞いてください。

**【視点2：思考過程に応じたワークシートの工夫】**

T：ハーンが見つけた「熊本スピリッツ」のよさとは何だろうか。

※ワークシートに意見を書いた後、周囲の友達と意見を交流する。

S：熊本にしかないスピリッツだと思う。

S：日本の古くからのよさです。

T：これから必要な「熊本スピリッツ」とは何だろうか。

ワークシートに自分の考えをまとめる。



◎友達と自分たちの考えた意見を交流し合う。

<活動を進めるにあたっての条件>

- 自分の意見に対する理由を話す。
- 「なるほど」「その考えはなかった」「いいなあ」と思った意見はメモに残す。
- 分からないことや気になることは、相手に質問する。

展開



T：再度聞きます。これから必要な「熊本スピリッツ」とは何だろうか。

友達との意見交流やメモを基に、再度自らの意見を見つめ、加筆修正を行い、学級全体に紹介する。



**【視点1：道徳的価値に基づいた問いの再提示】**

**【道徳的価値に根ざした問い】**  
日本人の大切な心とは何だろうか

S：自分の生まれ育った場所を大切にすることだと思います。

S：むだをなくし、ものや環境を大切にすることだと思います。

終末

3 本時の学習を振り返る。

**【視点2：学習の振り返りカードの活用】**

T：今日の学習を通して、これからの生活について気付いたこと、新しく考えたことを書いてください。

S：身近な文化を大切に、次に伝えていかなければならないと思います。



(3) 検証結果と考察

視点1について

「関係形成」という点において、小学校の実践と同様に、質問紙調査において検証授業前後の調査結果を表5に示す。

変容が見られた質問項目	学習前	学習後
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている。	2. 50	3. 39
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある。	1. 53	3. 55
話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	1. 50	3. 48
グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	1. 50	3. 33

【表5】授業前後の生徒の意識調査の結果（一部抽出）

また今回の学習に対する生徒の感想には、以下のような記述が見られた。

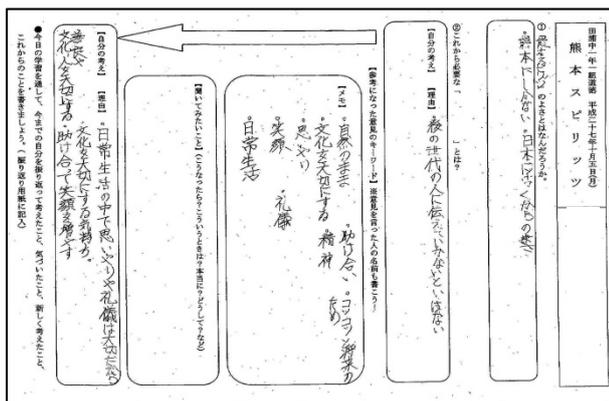
- 自分と意見が同じだったり、違ったりして新しい考えもできた。
- 友達の意見を聞いていくうちに自分の考えがわかっていくことが楽しかった。
- 友達の意見を聞くことで、自分の意見に自信が持てる。
- 話合いにより今までの気持ちに少し変化が表れて、友達をもっと大切にしようと思えた。

今回の学習を通して、生徒たちの道徳の授業に対する意識が大きく伸びていることが分かる。これまでの道徳の授業の展開と比較しても、生徒一人一人が自らの価値観を見つめ直ただけでなく、周囲の友達の存在や意見の大きさにも気付くことができている。

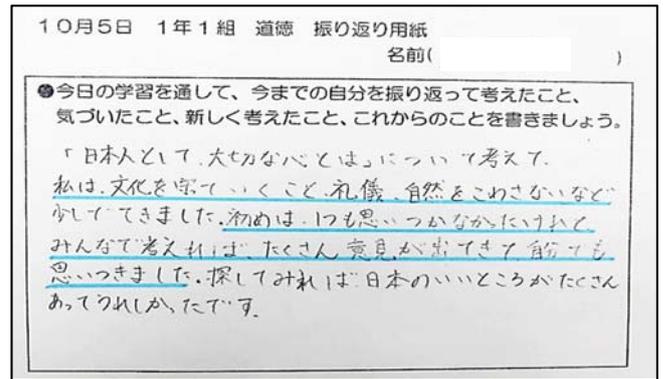
このようなことから、今回の問題解決的な学習の展開は、生徒の「関係形成」を育むうえで効果的に働いたと考えることができる。

視点2について

生徒が自らの考えを振り返る工夫として、学習の流れに沿ったワークシートへの記述（図5）と振り返りカードの活用（図6）を図った。



【図5】授業の流れに沿ったワークシート



【図6】授業後の振り返りカードへの記述

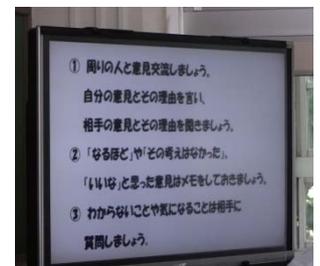
ワークシートについては、意見を交流させる前後の自分の意見を比較することができるだけでなく、どの意見が自らの意見を再構築することに影響を与えたのかも確認できるようになっている。

振り返りカードの活用については、授業における自分の姿を客観的に見つめ直すことにつながった。また、この振り返りカードは、校内に重ねて掲示できる場所を確保し、授業を通して自分や友達がどのように考えたのかを確認できるようになっている。

視点3について

ICTの活用については、本時の学習に対する興味・関心を高めるためだけでなく、意見交流の手順を生徒に示す際にも活用した。

生徒たちは、提示された流れを何度も確認しながら意見交流を進める様子が見られ、効果的な取組であったと考える。



【図7】ICTの活用

3 研究のまとめ

今回の研究では、平成28年度から本県で先行実施する「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえ、道徳の時間における問題解決的な学習の展開を工夫しながら、児童生徒の「関係形成」を育む実践研究に取り組んだ。

導入では、アンケート結果やICTを活用した資料提示をし、児童生徒と共に道徳的価値に基づく課題を設定した。展開では、その解決のために読み物資料の中の人物の気持ちや出来事に着目させ、児童生徒が物事を多面的・多角的に考えることができるような様々な話合い活動を取り入れた。また、そこで考

えたことを基に、再度導入時に考えた道徳的価値に基づく課題を振り返ることで、ねらいとする道徳的価値に迫るよう工夫した。終末では、ワークシートや振り返りカードを活用しながら、自らの生活を振り返り、自己や人間としての生き方について考えを深められるようにした。

本研究に関わる検証授業を参観した教員からの感想は、以下のとおりである。

- グループで話しやすい形態であったし、人の考えや価値を受けて、自分でもう一度考えてみるというスタイルは、関係形成力の育成に効果的であったと思う。
- 導入で使用された親と子のアンケートのギャップについて取り上げられたのは、価値（テーマ）への意識付けを図るうえで、とても効果的であったと思う。
- めあてが主人公の気持ちを考えるということではなく、児童それぞれが課題意識を持って学習することができていた。
- 課題が明確だったので、子どもたち一人一人が自分の考えを持ち、主体的に取り組んでいる様子が見られた。様々なやり方で友達の意見を取り入れる機会があり、自分の考えを広げることができていた。
- 子どもたちが互いに自分が考えたことを説明していた姿が印象的だった。自分と異なる意見を多く耳にすることで、価値観が広がったのではないかと思う。
- 他者の価値を自分の新たな知識として備えることができていたと感じる。
- 大きなテーマに対しても一生懸命自分なりの考えを出そうとしている姿が見られた。また、友達との交流後に、学習プリントにたくさん記入する様子があり、主体的に関わりながら考えを深めていったのではないか。
- 道徳の授業で問題解決的な学習をしていくような授業をしていくためには、その問題の設定の仕方がとても重要になってくると感じた。今までにない授業形態を見せたいへん勉強になった。

参観者からの感想にも、児童生徒の関係形成の育成に触れたものが多く、新たな道徳の授業スタイルの提案となったことが分かる。また、道徳の授業において、児童生徒がねらいとする価値の自覚を図ることが何よりも重要であるが、授業後の児童生徒の感想、そして参観者からの感想でも、達成できていたことがうかがえた。

しかしながら、実践を通して、様々な課題も浮かび上がってきている。例えば、問題解決的な学習を展開するためには、道徳的価値に基づく課題をどのように作り出していくかが重要である。今回は、アンケート結果等を中心に作り上げたが、児童生徒の実態に合致するものであったかどうか、今後さらに検証する必要がある。また、物事をより広い視野から多面的・多角的に考える学習とするために、話し

合い活動を積極的に取り入れていった。しかし、児童生徒が意見を交流する時間を十分確保するためには、教師の発問や他の活動の精選をより一層図る必要がある。

さらに、道徳科の評価の在り方については、国や県の動向を見定めながら、研究の中に取り入れていかなければならないと考えている。

現在、次期学習指導要領の改訂に向けての流れが加速している。その流れに先行して改訂された「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」にも続いた実践は、他教科の改訂の先導的役割を果たすことが期待されている。

今回の研究で得られた成果と課題を、次年度の研究へとつないでいきたい。

#### 《引用・参考文献》

- ・『小学校学習指導要領解説 総則編（抄）』  
文部科学省（2015）
- ・『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』  
文部科学省（2015）
- ・『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』  
文部科学省（2015）
- ・『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』  
文部科学省（2015）
- ・『小学校学習指導要領解説 道徳編』  
文部科学省（2008）
- ・『中学校学習指導要領解説 道徳編』  
文部科学省（2008）
- ・『今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）』  
文部科学省（2013）
- ・『道徳に係る教育課程の改善等について（答申）』  
中央教育審議会（2014）
- ・『資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～』  
国立教育政策研究所（2015）
- ・道徳教育用郷土資料「くまものこころ」小学1・2年  
熊本県教育委員会（2012）
- ・道徳教育用郷土資料「熊本の心」中学校  
熊本県教育委員会（2012）
- ・「みんなの道徳 6年」文溪堂